

## 『表象』論文の表記ガイドライン

投稿者のみなさま

編集委員会では、『表象』に掲載される論文の表記を揃えるため、次のような表記のガイドライン・注意事項を設けました。このガイドラインに沿って原稿を提出するようお願いします。

### 1. 文章の表現・表記

- 長い引用文は本文の終わりから一行開けた後、一字下げで統一する。引用の最後で改行し、一行空けて本文を再開する。その際、ポイント数は落とさない。
- かぎ括弧で始まる行の頭は一字下げにしない。
- 引用中の引用者補記には [ ] を用いる。例：[強調引用者]
- 疑問符（?）や感嘆符（!）を使用する場合、直後に全角スペースを一つ分空ける。
- 引用文での中略記号は […] を用いる。

### 2. 数字の表記

- 本文、日本語文献指示における世紀、年号、刊行年、ページ数は漢数字を使い（縦書きのため）、以下のように記す。  
例：一九世紀 三〇年代 一九九六年 七四—七六頁
- 上記最後の例のように頁や年号などの漢数字を繋ぐ場合には、全角ダーシ（ダッシュ）を使用する。
- 外国語文献指示における世紀、年号、刊行年などは算用数字を使う（4bを参照）。
- 論文内の節番号と節の題目は「全角算用数字+全角一字アキ」の要領で示す。  
例：1 問題提起

### 3. 註の処理

- 註はワードの脚注機能を使わず、本文中に半角アスタリスクと半角算用数字で「\*1」「\*2」のように記し、註の内容は論文末尾に註番号を明記の上入力する。  
例：[本文] (……) ミシュレも同意見である\*1。そして (……)  
[論文末尾] \*1 ジュール・ミシュレ『フランス革命史』 (……)

### 4. 文献の表記

- 文献表記については各分野で慣例が異なるので、それに則って表記してもかまわない。但し、論文内で統一する。
- 外国語文献の表記も同様であるが、分野ごとに定められた特殊な慣例に従っているのではない場合は、シカゴ・スタイル (*Chicago Manual of Style* 17<sup>th</sup> edition) に合わせて表記を統一させる。

○論文の最後に一括して参考文献リストをあげるか、それとも註ごとに完全な書誌情報を提示するかは、各人の判断に任される。

#### a. 日本語文献の表記例

—単行本 著編者名『書名』出版社名、刊行年、ページ数。

—翻訳書 原著者名『書名』訳者名、出版社名、刊行年、ページ数。ページ数を記入しない場合、刊行年の後に「。」を打つ。

例：ポール・リクール『生きた隠喩』久米博訳、岩波書店、一九九八年、一五一一八頁。

—論文 執筆者名「論文名」『収録雑誌名』号数、刊行年（月）、ページ数。または 執筆者名「論文名」『収録書名』出版社名、刊行年、ページ数。

例：イマニュエル・ウォーラーステイン「アメリカの六八年」、藤原書店編集部編『一九六八年の世界史』藤原書店、二〇〇九年、七五一八七頁。

○いずれも最後に「。」を打つ。

#### b. 外国語文献の表記例

—単行本

例：James Kearns, *Symbolist Landscapes: The place of Painting in the Poetry and Criticism of Mallarmé and His Circle* (London: Modern Humanities Research Association, 1989), p. 11-17.

—論文

例：Claire Bishop, “Antagonism and Relational Aesthetics,” *October*, no. 110 (fall 2004), pp. 51-80.

例：Hal Foster, “The Artists as Ethnographer,” in *The Return of the Real: The Avant-Garde at the End of the Century* (Cambridge, MA: MIT Press, 1996), pp. 170-203.

○いずれも最後にピリオドを打つ。

### 5. 図版、表

○図版ごと、表ごとに通し番号を付す。図版は「図1」、「図2」…、表は「表1」、「表2」…と表記する。

例：図5 エドゥアール・マネ《洗濯》（1875年）バーンズ財団美術館所蔵

○掲載する図版のサイズについて、要望がある場合は具体的に指定する。

○図版の掲載許可については、執筆者が、自らの責任において、日本における慣行に配慮しつつ、しかるべき手続きをとる。

○図版データはグレースケールとする。解像度は350dpi程度が望ましい。

### 6. 英文要旨

○英文要旨の完成度も審査の対象となるので、必要に応じてネイティブ・チェックを受けることが望ましい。

○イギリス式ではなくアメリカ式の表記法を用いる。例えば引用部分は、一重カギではなく、二重カギ。

○100 以下の数字については英単語を用いて綴る。逆に 101 以上の数字はアラビア数字を用いる。

例：in the 19th century ではなく in the nineteenth century; 28 years old ではなく twenty-eight years old;  
fourteen people in the room;

○ただし、日付、年号、パーセンテージ、ページ数、お金の表記、101 以上の数を含む複数の数字を併記するときなどにはアラビア数字を用いる。

例：56 percent; 34 dollars; 98 boys and 102 girls in the room;

○人名にイニシャルが入る場合は、ピリオドのあとに 1 つスペースをいれる。

例：D. H. Lawrence

以上